

群馬工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	英語
科目基礎情報						
科目番号	5E004		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 4		
開設学科	電子メディア工学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Grammar Collection Full Version, 必携英語表現活用ノート					
担当教員	長井 志保					
到達目標						
□大学入試程度の文法事項を理解できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	□英文を読んで、流れを踏まえて重要な内容を理解することが良くなる。		英文を読んで、流れを踏まえて重要な内容を理解することができる。		英文を読んで、流れを踏まえて重要な内容を理解することができない。	
評価項目2	□英文を読んで、流れを踏まえて重要な内容の要約を書くことが良くなる。		□英文を読んで、流れを踏まえて重要な内容の要約を書くことができる。		□英文を読んで、流れを踏まえて重要な内容の要約を書くことができない。	
評価項目3	□英文音声をもとに、内容を理解しながら、シャドーイングすることが良くなる。		□英文音声をもとに、内容を理解しながら、シャドーイングすることができる。		□英文音声をもとに、内容を理解しながら、シャドーイングすることができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	大学入試程度の文法事項を分析する。					
授業の進め方・方法	本授業は学生個々人の学習活動に重点を置く。					
注意点	予習は必須である。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	＜主語＋動詞＞		文の構造を整理する①	
		2週	動詞のあとに続く語句①		文の構造を整理する②	
		3週	動詞のあとに続く語句②		文の構造を整理する③	
		4週	命令文		原形不定詞を理解する	
		5週	受動態		英語の情報構造を理解する	
		6週	助動詞		可能性をあらわす助動詞を理解する	
		7週	時制		助動詞の過去形を理解する	
		8週	名詞句・名詞節		不定詞を理解する	
	2ndQ	9週	形容詞		現在分詞と過去分詞を理解する	
		10週	副詞		－ingのはたらきを理解する	
		11週	形容詞句・形容詞節		－edのはたらきを理解する	
		12週	比較		差の程度のあらわし方を理解する	
		13週	限定詞		関係詞・疑問詞・接続詞の見分け方を理解する	
		14週	代名詞		thatのはたらきを理解する	
		15週	トピックをつかむ		itのはたらきを理解する	
		16週	対比		展開をあらわすことばを理解する	
後期	3rdQ	1週	＜主語＋動詞＞をつかむ		英文の構造を理解する	
		2週	動詞のあとに続く語句		＜動詞・補語＞などのかたちをとる動詞を理解する	
		3週	等位接続詞		おもな等位接続詞のはたらき	
		4週	節をとらえる①		節のはたらき	
		5週	節をとらえる②		接続詞thatが省略される場合	
		6週	修飾関係をとらえる		副詞の位置	
		7週	句をとらえる		句のはたらき	
		8週	代名詞を・限定詞をとらえる		thatのはたらき	
	4thQ	9週	論理展開をあらわすことば①		＜逆説＞をあらわすことば	
		10週	論理展開をあらわすことば②		＜列挙・追加＞をあらわすことば	
		11週	論理展開をあらわすことば③		＜対比＞をあらわすことば	
		12週	論理展開をあらわすことば④		＜結果・結論＞をあらわすことば	
		13週	論理展開をあらわすことば⑤		＜時の対比＞をあらわすことば	
		14週	論理展開をあらわすことば⑥		＜主張＞をあらわすことば	
		15週	論理展開をあらわすことば⑦		＜言い換え＞をあらわすことば	
		16週	エッセイ・小説の読み方①		語句を言い換える	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	

			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	80	0	0	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0